

## 東京一極集中と新しい時代がもたらすもの

全国山村振興連盟事務局長 實重重実

今回は少し柔らかい話題で、私が職場の周りで経験したことを話します。

ある日私が地下鉄永田町の駅外の地下通路を歩いていたときの事です。曲がり角で右に曲がったところで、若い女性にぶつかりそうになりました。咄嗟によけながら、私は、「どうも」と言いました。同時にその女性の方は、「右歩けよ」と言い捨てて去っていきました。

しかし考えてみると、右を歩いていたのは私の方なのです。その女性は左側を歩きながら、左に曲がろうとしたのでした。「右歩けよ」と言いたいのは、私の方だったのでした。

思うにその女性は道路を通行していて人と鉢合わせしそうになると、どんなときでも咄嗟に「右歩けよ」と言う習慣が身についているのではないのでしょうか。東京の群衆は、こんな風にいつもいらしているようで、あまり良い精神状態とは言えません。これも人口の都市集中がもたらした弊害の現象の一つなのでしょう。

一方、またあるとき、私が地下鉄の電車に乗って座っていると、乳母車に幼児を乗せたお母さんが乗り込んできました。赤ちゃんは、何かをしきりに触っているのですが、よく見るとそれはコンピュータ端末の液晶画面だったのでした。赤ちゃんは上手に操作をして、キャラクターもののアニメ動画を見たり、また別のアニメ動画を見たりという指の動きを繰り返し、飽きることがありません。タッチパネルに触れる指の動きが、迅速で的確なのに感嘆させられました。

駅に着いて電車から降りるために立ち上がったとき、私はお母さんに、「賢い子ですね」と声をかけてみました。女性は「こればかりなんですよ」と答えました。

「何歳ですか」と聞くと、「もうすぐ2歳です」との返事。私は「そんなに小さいんですか。びっくりです」と言って電車を降りました。

まだ物心もついていないだろう1歳の子供がコンピュータの液晶画面を適切に操作する。この子にとっては、生まれたときからコンピュータというものが自分の脳の延長としての道具なのでしょう。新世代は、畏るべしです。

こうした子供たちが育って行った後の世界は、サイバー空間やAIを含めて今の世の中の常識は通用しない世界になって行くことでしょう。都市とか農山村といった地域区分の常識も覆るかもしれません。

山村地域にとってそれがプラスの方向に働いていくようになることを願いたいものです。